



11月16日
東地申第23号

「2022年3月ダイヤ改正等について」の検証に関する申し入れ

【基本】団体交渉を行う!(その1)

交渉の ポイント

- ・2022年3月ダイヤ改正後の「取扱いの見直しや変更」等の成果と課題を確認!
- ・睡眠を目的とした時間や徒歩時分等、ゆとりがなく、働きづらくなっていることを主張!
- ・次期ダイヤ改正に向けて、現場の声である「区別の団体交渉」を真摯に臨むことを主張!

1. 2022年3月ダイヤ改正後、「乗務員の業務等の見直し」や「乗務員の労働時間の算定に向けた再実測の変更」さらには「運転士による出区電車のドア開扉ならびに案内設定の取扱い」などの成果と課題を明らかにすること。

回答:技術革新や業務内容の変化を踏まえ、これまでの役割分担にとらわれない柔軟な働き方を実現するために、安全・安定輸送を確保しつつ、働きやすさの向上を図りながら見直しを行った。

組 合

- ◆ 乗務員の業務等の見直しへの成果と課題は何か。
- ✓ 業務等の見直しにより「点呼が重なる」「点呼から出場までゆとりがない」など「きつくなっている」職場の声を主張する!
- ◆ 睡眠を目的とした時間は拡大されているが、起床点呼から20～30分前に起きているのでは、成果と言えないのではないのか。
- ◆ 課題で、職場からあがっている声はないのか。
- ◆ 誰がトレースしたのか。
- ✓ 現場の声を聞くことを求める!
- ◆ 成果では、職場からどのような声があがっているか。
- ◆ 「運転士による出区電車のドア開扉ならびに案内設定の取扱い」の成果と課題は何か。
- ◆ 課題では、入線から発車時刻まで時間僅少の場合、さらには、多車種の区所で列車遅延があると、行先・案内設定に焦りが生じる。改善を求める。
- ◆ この取扱いを実施する目的は何か。
- ◆ ホーム据え付けで「準備でき次第ドア開け」となっているが、日によって時間が異なる。意見はあがっていたりするのか。
- ✓ 現場からすれば、働きやすさの向上にはなっていない。実際には、働きづらくなっていることを主張する!

会 社

- 成果は、早目出場の見直しを行い、準備時間や行先地時間が拡大したことである。課題はない。
- 起床点呼時刻までに起床して、点呼してもらえば良い。
- 全職場でトレースしてきたが、声はあがっていない。
- 窓口は計画副長。区によっては、指導・当直の副長が行なっている。
- 「出区で早めに出場しなくて良くなった」「入線までの縛りがなくなったことは良いことだ」と声があがっている。
- 成果は、運転士が準備でき次第ドア開扉としたことで、お客さまを待たせることがなくなり、利便性の向上につながった。車掌の早目出場もなくなり、働き方も向上した。課題は、トライアルなどやってきたため、大きな課題はない。
- 時間僅少の際、設定が忙しいことは承知している。できるところは改善をしていく。
- ホームに据え付けているのに、ドアが開かず、お客さまが乗れないことを解消することが大きな目的である。
- 意見はあがっていない。

その2へ続く



11月16日 「2022年3月ダイヤ改正等について」の検証に関する申し入れ

東地申第23号

【基本】団体交渉を行う!(その2)

2. 各職場での2022年ダイヤ改正の課題について、社員の意見集約方法を明らかにするとともに、集約された内容を支社として次期ダイヤ改正での改善に向けた取り組みについて具体的に明らかにすること。

回答:引き続き、関係箇所と調整しながらダイヤ改正作業を進めていく考えである。

組 合	会 社
◆ <u>どのように職場の改善につなげていくのか。</u> ◆ 現状からは、指導担当が乗務員に対して声を拾っているのが見えてこない。どのように声を掴んでいるかは把握しないのか。 ◆ 「ダイヤ改正プロジェクト」は、どの職場でも立ち上がっているのか。 ◆ <u>トレースはどのように行われているのか。決まりはあるのか。</u> ◆ 思っていることを意見として述べれば、首都圏本部にもつないでもらえるということで良いか。 ✓ <u>区別の団体交渉に、真摯に臨むことを主張する!</u>	➤ <u>具体的には乗務員の声を聞き、トレースしている。乗務社員がコミュニケーションの中で乗務員の声を聞いている。</u> ➤ コミュニケーションの中から声を拾っていることが多い。区所により把握の仕方が違う。トレースの仕方は首都圏本部としても指導していく。 ➤ 区所ごとに対応している。現場長の判断によって行われている。 ➤ <u>実施の2～3週間前から意見集約をお願いし、課題の把握と区所を回って話を聞いている。現在、ダイヤ改正作業真っ只中である。声をあげてもらわないと変わらない。意見を出してほしい。</u> ➤ 現場で「つないだ方が良い」「区所で解決できるもの」「支社またがり調整が必要なもの」は判断していく。

3. 乗務員の泊行路については、安全・安定輸送の確保や健康管理の観点から、到着点呼から起床点呼までの実質睡眠時間を運転士は6時間、車掌は5時間以上確保すること。

回答:列車ダイヤの設定や効率的な運用を勘案し、乗務割交番作成規程に基づき行路を作成している。

組 合	会 社
◆ <u>今回“実質睡眠”を求めている。入区などあれば、実質6時間、5時間ないのが現状である。その認識はあるのか。</u> ◆ 区所ごとの現状も加味して作成すること。 ◆ 終電時刻を繰り上げたが、入区時間は変わっていないため、睡眠を目的とした時間は変わらない。延ばせる方法等の工夫が必要であり、出入区含めて検討するべきだ。 ✓ <u>2019年に「乗務員勤務制度」が改正され、労働時間が長くなっている。20～30分前に起きているため、睡眠を目的とした時間は減少している。事故・事象も起きているため、安全の観点からも、「睡眠を目的とした時間の拡大」を求める!</u>	➤ <u>規定はクリアしているが、睡眠を目的とした時間をギリギリで作成しているわけではない。可能な限り拡大できるところは拡大するように作成している。</u> ➤ 現場の実情を見ていないということはない。担当も現場に足を運んで、苦労しながら作成している。理解はしてほしい。 ➤ 実態を見ながら、区所とも意見交換を行い、行路作成をしていく。



4. 起床点呼から出区点検終了時間及び入換信号機開通時間までの実態を把握し改善すること。
回答:安全・安定輸送を確保しつつ、働きやすさの向上を図りながら見直した。なお、必要な労働時間は確保している。

組 合	会 社
◆ <u>実態を把握して見直したというが、どのように見直したのか。</u> ◆ <u>「実際に自分たちが測ったのか」「数値が足りない」という声が出ている。職場から意見はあがっているのか。</u> ◆ 本来は歩いて測るものである。現場実態にそぐわず、首都圏本部と乖離している。再実測を求める。 ◆ <u>全て歩いて実測していないのか。</u> ◆ なぜ、計測のやり方を変えたのか。 ✓ <u>現場で働く乗務員はギリギリだと感じている。声があれば、再実測を求める！</u> ✓ <u>ゆとりがなくなり、焦ってしまうのが現状である。現場から出てきた問題については、確認を求める！</u>	➤ <u>起床点呼から実際の出区箇所、最遠の場所を見ている。必要な時間は確保したと考えている。</u> ➤ <u>トレースの中で「準備時間が足りない」という声は聞いていない。計測機を用いて算出している。駅から車両センターが離れているところは、地図アプリを活用している。</u> ➤ 実際に声があるのであれば、あげてもらいたい。 ➤ <u>その通り。地図アプリは地点の精度が高い。距離の離れているところは、地図アプリで距離を出していく。</u> ➤ 全支社統一して「同じフォーマットでやっていこう」となった。一定程度の基準をつくって行う方が効率が良いため、変更している。

5. 運転士が出区点検時間を確保するために、実際に起床している時刻の把握を行い改善すること。
回答:安全・安定輸送を確保しつつ、働きやすさの向上を図りながら見直した。なお、必要な労働時間は確保している。

組 合	会 社
◆ 把握しているのか。 ◆ 乗務員が一定程度、早く起きていることは把握しているということか。 ◆ <u>自動出区点検は項目が多く、進むのが遅い。余裕時間をつけることは可能なのか。</u> ✓ <u>首都圏本部として、現状把握することを求める！</u>	➤ 全区所では把握していない。一部の区所では、起床体系を見ている。出区点検のためかはわからない。 ➤ 把握している。 ➤ <u>時間については変更する考えはない。見習い養成関係の自動出区点検に関するところは、首都圏本部でも話をしていく。</u>

その4へ続く



【基本】団体交渉を行う!(その4)

6. 乗務員の起床時刻から乗務までにかかる時間の短縮により乗務員の負担が増大していることから起床時間に対する実態を把握し改善をすること。

回答:安全・安定輸送を確保しつつ、働きやすさの向上を図りながら見直した。なお、必要な労働時間は確保している。

組 合	会 社
◆ 首都圏本部として、変更の可否はあるのか。 ◆ <u>早めに点呼している事実はある。把握を求める。</u> ✓ <u>準備時間が足りていないことを強く主張する！</u>	➤ 起床設定時間は、従前と大きな差はないと考える。 ➤ <u>時分を見直す考えはない。声は受け止める。</u>

7. 2022年3月ダイヤ改正検証で出された各職場からの検証項目については、次期ダイヤ改正において改善をすること。

回答:引き続き、関係箇所と調整しながらダイヤ改正作業を進めていく考えである。

組 合	会 社
◆ <u>各職場に「ダイヤ改正プロジェクト」をつくるのか。</u> ◆ <u>首都圏本部が作成したものを現場に落とすのか、現場で作成したものを首都圏本部に持って行き、再度現場に落とすのか。スタートはどちらなのか。</u> ◆ プロジェクトの位置づけが重要になるが、プロジェクトの立ち上げや募集が周知されない。首都圏本部として指導するべきだ。秘密裡に行うことはない。 ◆ 次期ダイヤ改正への考え方はあるのか。 ◆ 次期ダイヤ改正について、早めに提案するべきだ！ ✓ <u>今後行う区別交渉の議論を首都圏本部として検討を行い、次期ダイヤ改正につなげることを主張する！</u>	➤ <u>実態は様々あるが、各職場でつくっていく。</u> ➤ <u>現場移管されたので、ゼロから現場でつくる。現場で作成したものをチェックして承認していく。形になるまでは、首都圏本部と現場でコミュニケーションをとっていく。</u> ➤ 権限移譲しているので、指導までいかない。コミュニケーションを図りながら、ある程度は現場にお任せする。 ➤ お客さまの戻りを加味した中での輸送施策を行なっていく。 ➤ 準備でき次第、提案を行なっていく。

次期ダイヤ改正に向けて、現場の声をもとにした「輸送サービスの向上」を実現させるために、区別の団体交渉へとつなげよう！